

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：14302

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520154

研究課題名(和文) 近現代の東アジアにおける語り物音楽の演奏様式の変容に関する分析研究

研究課題名(英文) An analyzing study on the Transformations of the performing styles of the narrative music in the modern and contemporary East Asia

研究代表者

垣内 幸夫 (KAKIUCHI, Yukio)

京都教育大学・教育学部・教授

研究者番号：50117420

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近現代の東アジアにおける語り物音楽の演奏様式を分析し、その変容の実態について明らかにすることを目的として行った。そのため、研究代表者は平成24年度から平成26年度にかけて、各ジャンルの演奏家並びに研究者に対してインタビューを実施した。

インタビューの内容は、義太夫節・パンソリ・蘇州弾詞の初期録音に見られる演奏様式の諸特徴に関するもので、全てのインタビュー内容をデジタル映像に記録した。インタビューで明らかになった研究成果については、論文・研究発表等で随時公表してきた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to analyze the performing styles of the narrative music in the modern and contemporary East Asia. For this purpose the author conducted interviews to the performers and the researchers of the various genres between 2012 and 2014.

The interviews were conducted about the performing styles of the recordings of Gidayu-bushi (Japanese narrative ballad story telling), Pansori (Korean narrative ballad story telling) and Suzhou Tanci (Chinese spoken and sung story telling) and all of them were recorded on the digital video. The research results have been published in papers and research presentations as occasion arises.

研究分野：人文学

キーワード：芸術諸学 東アジア 語り物音楽 義太夫節 パンソリ 蘇州弾詞

1. 研究開始当初の背景

(1)近現代の東アジアにおける語り物音楽の演奏様式の変容に関する分析研究はいまだ緒についたばかりである。義太夫節・パンソリ・蘇州弾詞の近現代における演奏様式の変容について比較検討した先行研究は、国内はもとより海外においても殆ど見当たらない。

(2)研究代表者垣内幸夫は、平成21～23年度に科学研究費の補助を受けて、東アジアの語り物音楽の声の技法に関する比較分析研究を行った。研究対象である義太夫節・パンソリ・蘇州弾詞の伝承者に対するインタビューによって得た知見は、「東アジアの語り物音楽研究 義太夫節・パンソリ・評弾の比較を通して考えたこと」『音楽教育学』(第42巻第1号、日本音楽教育学会、2012年)や「全羅北道立国楽院・金美貞教授のパンソリクラスを体験して」『韓日合同音楽教育セミナー論文集』(韓国音楽教育学会、2009年)の論文及び東洋音楽学会例会における講演「私のパンソリ研究」と研究発表「近現代における評弾の伝承について 調の分析を中心に」において公表してきたところである。これらの成果を踏まえ、日本の義太夫節と韓国のパンソリ、中国蘇州の弾詞の近現代における演奏様式の変容に焦点を当てた研究を展開することの必要性を痛感するに至った。

2. 研究の目的

(1)本研究の目的は、近現代の東アジアにおける語り物音楽の演奏様式の変容を明らかにすることにある。初期録音に記録された歴史的演奏を分析し音楽的特徴を整理するとともに、伝承者へのインタビューによって得られた知見をもとに、パンソリ・蘇州弾詞の伝承の実態を浮き彫りにする。

(2)研究代表者垣内幸夫は、長年にわたって日本を代表する語り物音楽である義太夫節の演奏・演出様式に関する音楽学的研究を行ってきた。本研究では、これまで行った義太夫節研究の方法を応用し、義太夫節研究で得た知見をもとに、東アジアの語り物音楽である韓国のパンソリと中国蘇州の弾詞について、それぞれの伝承者の技芸を対象として、その音楽的諸特徴を明らかにする。

3. 研究の方法

(1)研究方法は、義太夫節・パンソリ・蘇州弾詞の伝承者及び研究者へのインタビュー内容を整理し、歴史的音源資料・映像資料を分析するというものである。パンソリと蘇州弾詞のインタビュー対象者には、国の重要無形文化財(=人間国宝)指定の演奏家が含まれている。また、インタビュー対象者には高齢者が多く、本研究で行ったインタビューの記録と本研究で得た知見の意義は大きいと考えられる。インタビューは全て映像資料として記録した。それらの記録を分析するとい

う手法は、研究代表者がこれまで行ってきた義太夫節の研究方法を踏襲するものである。

(2)本研究期間内に行ったインタビューを以下に示す。

<平成24年度>

平成24年5月4日、中国上海市における上海評弾団団長・秦建国氏への蘇州弾詞に関するインタビュー

5月5日、中国上海市における箴調の伝承者・胡國梁氏への蘇州弾詞に関するインタビュー

12月26日、中国上海市における上海評弾団副団長・周震華氏への蘇州弾詞に関するインタビュー

12月28日、中国上海市における秦建国氏(前出)への蘇州弾詞に関するインタビュー

平成25年3月1日、韓国ソウル市における国楽音盤博物館館長・盧載明氏へのパンソリ初期録音に関するインタビュー

<平成25年度>

平成25年8月17日、中国上海市における蘇州弾詞の演奏家・江文蘭氏(人間国宝)へのインタビュー

8月18日、中国上海市における蘇州弾詞の演奏家で音楽理論家の楊徳麟氏へのインタビュー

9月5日、韓国全州市における西便制の伝承者・崔承姫氏と東超制の伝承者・李一珠氏へのパンソリに関するインタビュー

9月6日、韓国ソウル市におけるパンソリ名唱・申英姫氏(人間国宝)へのパンソリに関するインタビュー

12月28日、中国上海市における蘇州弾詞の演奏家・陳希安氏へのインタビュー

平成26年2月28日、京都府木津川市における文楽研究家・高木浩志氏への義太夫節初期録音に関するインタビュー

<平成26年度>

平成26年5月4日、中国上海市における蘇州弾詞の演奏家・趙開生氏へのインタビュー

7月31日、東京都渋谷区における義太夫(太棹)三味線の演奏家・田中悠美子氏への義太夫節・蘇州弾詞の初期録音に関するインタビュー

12月1日、東京都渋谷区における田中悠美子氏(前出)へのパンソリの初期録音に関するインタビュー

12月26日、中国上海市における楊徳麟氏(前出)への蘇州弾詞に関するインタビュー

12月28日、中国上海市における江文蘭氏(前出)への蘇州弾詞に関するインタビュー
(以上)

(3) パンソリと蘇州弾詞に関しては、歴史的音源資料と文献・楽譜の収集・分析につとめ、インタビューの際、それぞれの初期録音を聴きながら演奏様式の特徴について確認した。また、義太夫節研究の方法を応用し、義太夫節研究で得た知見をもとに、パンソリと蘇州弾詞の現行の演奏と初期録音の演奏を比較して、近現代の東アジアにおける語り物音楽の演奏様式の変容について考察を進めた。その際、義太夫(太棹)三味線の演奏家・田中悠美子氏の研究協力を得、研究代表者とともに義太夫節・パンソリ・蘇州弾詞の初期録音の演奏を聴きながら諸特徴を確認した。

4. 研究成果

(1) 平成 24 年 5 月 3 日に上海評弾団(上海市)を訪れ、同団所有の SP レコードについて調査した。5 月 4 日には同団の団長・秦建国氏に対して、本研究課題「近現代の東アジアにおける語り物音楽の演奏様式の変容」に関するインタビューを行い、秦建国氏提供の古い時代の蘇州弾詞の演奏を解説したラジオ放送「評弾老唱片アルバム」の録音を聴きながら、現在の評弾演奏との違いについてお話を伺った。5 月 5 日には上海市内の胡國梁氏宅を訪れ、蘇州弾詞の最も古い録音について質問し、ご教示を受けた。胡國梁氏は蘇州弾詞に関して造詣の深い人物であり、巖雪亭が創始した巖調の正統伝承者でもある。そして『弾詞流派唱腔大典』(中国唱片上海公司出版、2004 年*CD26 枚)の編集並びに全ての解説を執筆されている。

平成 24 年 12 月 24~30 日に再び上海市を訪れ、上海評弾団団長・秦建国氏とともに『老唱片博覧評弾篇(1920-1940 年代珍貴録音)』(中国唱片上海公司出版、2011 年 CD5 枚)の録音を聴き、近現代の蘇州弾詞の演奏様式の変容に関するお話を伺った。上海市滞在中に上海図書館(上海市淮海中路)において、蘇州弾詞最古の録音とされる、1923 年前後に録音された呉玉菘(1890~1958)の演奏する《玉蜻蛉》《描金鳳》《白蛇伝》の 3 枚の SP レコード(全 6 面)の存在を確認し、それらの歴史的音源を視聴し、現代の評弾との演奏様式の違いについて直接確かめることができた。

平成 25 年 2 月 27~3 月 4 日の間、韓国ソウル市を訪れパンソリの研究者で国楽音盤博物館館長の盧載明(ノジェミョン)氏にお会いして、近現代のパンソリの演奏様式の変容に関するお話を伺った。またパンソリに関する文献資料・音源資料・映像資料・演奏会情報に関する資料収集を行った(於:国立国楽院・国立劇場・教保文庫)。

平成 24 年度の研究成果は、「近現代の東アジアにおける語り物音楽の演奏様式の変容 中国蘇州の評弾を事例として」「東アジアの語り物音楽研究 義太夫節・パンソリ・評弾の比較を通して考えたこと」の二編の論文と、学会における三つの口頭発表において公表した。

(2) 平成 25 年 8 月 17 日に、上海市内で蘇州弾詞の演奏家・江文蘭氏(1930~・人間国宝)に対してインタビューを行い、『老唱片博覧評弾篇』(前出)の音源と一緒に聴いてもらい、歴史的な諸演奏や各演奏家の特徴についてお話を伺った。8 月 18 日には、同じく上海市内で、蘇州弾詞の演奏家であり音楽理論家の楊徳麟氏(1928~)に対してインタビューを行った。

平成 25 年 9 月 5 日には、韓国全州市にある全羅北道率国楽院において西便制の伝承者で名唱丁貞烈(1878~1938)のパディを継承するパンソリ唱者・崔承姫(1937~)並びに東超制の伝承者・李一珠(1936~)に対してインタビューを行った。9 月 6 日には、韓国ソウル市においてパンソリの人間国宝・申英姫(1942~)に対してインタビューを行い、古い時代のパンソリと現在のパンソリの違いについてお話を伺った。

平成 25 年 12 月 18 日に、上海市において蘇州弾詞の演奏家・陳希安氏(1929~)に対してインタビューを行った。この時も『老唱片博覧評弾篇』の音源と一緒に聴いてもらい、歴史的な諸演奏や各演奏家の特徴についてお話を伺った。

平成 26 年 2 月 28 日に、京都府木津川市で文楽研究家の高木浩志氏とともにガイスパークの来日初期録音に収められた日本最古の義太夫節の音源を聴きながら、義太夫節の歴史的な諸演奏や各演奏家の特徴を確認し、現在の義太夫節の演奏との共通点・相違点に関する高木氏の見解を伺った。

平成 25 年度の研究成果は、学会における三つの口頭発表「近現代における評弾の伝承について 調の分析を中心に」「パンソリの初期録音レコードについて」「義太夫節とパンソリ」において公表した。

(3) 平成 26 年 5 月 8 日に、上海市において蘇州弾詞の演奏家・趙開生氏(1936~)に対してインタビューを行った。その際『老唱片博覧評弾篇』の音源と一緒に聴き、歴史的な諸演奏や各演奏家の特徴についてお話を伺った。

平成 26 年 7 月 31 日、東京都渋谷区において義太夫(太棹)三味線演奏家の田中悠美子氏に対してインタビューを行った。内容は、ガイスパークの来日初期録音に収められた日本最古の義太夫節の音源と一緒に聴きながら、義太夫節の歴史的な諸演奏や各演奏家の特徴を分析するというものであった。さらに『老唱片博覧評弾篇』所収の蘇州弾詞の歴史的演奏を聴きながら、田中氏の蘇州弾詞に関するご意見を伺った。

平成 26 年 12 月 1 日に、再び田中悠美子氏に対してインタビューを行い、パンソリ名唱の演奏を映像で確認しながら、パンソリ唱者の発声や表現の諸特徴に関する意見を伺った。

平成 26 年 12 月 26 日には、音楽理論家の

楊徳麟氏（1928～）に対して、蘇州弾詞に関する2度目のインタビューを行った。続いて12月28日に、蘇州弾詞の演奏家・江文蘭氏（1930～・人間国宝）に対して、3度目のインタビューを行った。これまで蘇州弾詞に関するインタビューを行った方々の中で、このお二人は本研究にとって特に重要な人物である。楊徳麟氏は、氏が中心となって編集・執筆された《中国曲芸音楽集成・上海巻》編集委員会『中国曲芸音楽集成・上海巻（上・下冊）』（中国 ISBN 中心出版、1997年）の内容について、詳細に説明して下さった。江文蘭氏のお話しは全て実演を伴うもので、蘇州弾詞の本質的理解に繋がるものであった。

3年間に行った蘇州弾詞の演奏家（含む人間国宝）・音楽理論家へのインタビュー、並びにパンソリの伝承者（含む人間国宝）・研究者へのインタビューで得た知見は、近現代の東アジアにおける語り物音楽の演奏様式の変容を考察するための貴重な資料である。特に、インタビュー対象者の多くがご高齢であり、彼らのご健在の内にインタビューを重ねることができたことは幸いであった。

平成26年度の研究成果は、拙論文「近現代における蘇州弾詞の調（流派）に関する一考察」として公表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計3件）

垣内幸夫「近現代における蘇州弾詞の調（流派）に関する一考察」『京都教育大学紀要音楽教育学』京都教育大学、査読無、No.126、2015年、139～153頁

垣内幸夫「近現代の東アジアにおける語り物音楽の演奏様式の変容 中国蘇州の評弾を事例として」『第10回日中音楽比較研究国際学術会議論文集 第10巻』査読有、2013年、338～346頁

垣内幸夫「東アジアの語り物音楽研究 義太夫節・パンソリ・評弾の比較を通して考えたこと」『音楽教育学 第42巻第1号』日本音楽教育学会、査読有、2012年、24～31頁

〔学会発表〕（計6件）

垣内幸夫「義太夫節とパンソリ」(研究発表)日本音楽教育学会近畿地区平成25年度第2回例会、於：帝塚山大学学園前キャンパス こども学科棟(18号館) 2014年3月15日

垣内幸夫「パンソリの初期録音レコードについて」(研究発表)平成25年度国立民族学博物館共同研究会、於：国立民族学博物館2階(第6セミナー室) 2014年3月2日

垣内幸夫「近現代における蘇州評弾の変容 江文蘭・楊徳麟氏への問書を中心に」(研究発表)東洋音楽学会西日本支部第262回定例研究会、於：京都教育大学D1講義室(2号館1階) 2014年2月1日

垣内幸夫「近現代の東アジアにおける語り物音楽の演奏様式の変容 中国蘇州の評弾を事例として」(研究発表)第10回日中音楽比較研究国際学術会議 於：東京藝術大学音楽学部5-409教室、2013年3月28日

垣内幸夫「近現代の評弾～調（流派）の確立と伝承」(研究発表)平成24年度国立民族学博物館共同研究会、於：国立民族学博物館(第1演習室) 2013年1月14日

垣内幸夫「近現代における評弾の伝承について 調の分析を中心に」(研究発表)東洋音楽学会西日本支部第257回定例研究会、於：京都教育大学D4講義室、2012年7月21日

〔その他〕
ホームページ等

近現代における蘇州弾詞の調（流派）に関する一考察
<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/handle/123456789/8125>

韓国魂の歌～パンソリ探訪記
http://www.kyokyo-u.ac.jp/outline/kankobutsu/kouhou/pdf/128_kaigai.pdf#search=%E9%9F%93%E5%9B%BD%E9%AD%82%E3%81%AE%E6%AD%8C

東アジアの語り物音楽 義太夫節・パンソリ・評弾の音楽的特徴に関する比較研究
http://www.kyokyo-u.ac.jp/outline/kankobutsu/kouhou/pdf/126_kenkyu.pdf#search=%E6%9D%B1%E3%82%A2%E3%82%B8%E3%82%A2%E3%81%AE%E8%AA%9E%E3%82%8A%E7%89%A9%E9%9F%B3%E6%A5%BD

6. 研究組織

(1) 研究代表者

垣内 幸夫(KAKIUCHI, Yukio)
京都教育大学・教育学部・教授
研究者番号：50117420